

2021年度下期 助成金交付先

< 1 > 株式会社 あおごち （本社：松戸市）

< 2 > A' Culture 株式会社 （本社：いすみ市）

< 3 > Sake Base 株式会社 （本社：千葉市稲毛区）

< 4 > ペナシユール房総 株式会社 （本社：南房総市千倉町）

< 5 > 株式会社 カワイチ・テック

（本社：東京都葛飾区、工場：成田市）

※ 申請受付順に記載

< 1 >

交 付 先 株式会社 あおごち（本社：松戸市）

代 表 者 代表取締役 山 田 齊

業 種 製造業、電子通信機器製造・販売

事業・研究開発概要

【 B 2 B 市場向けヘルメット装着型ヘッドセット「addSound」の開発 】

当社は、「骨伝導スピーカー」と「デジタル無線」、「センサ技術」を応用したオーディオ・通信機器（製品名：addSound）の開発を行っている。

最初に販売を開始したオートバイヘルメット用サウンドシステムは、オートバイ乗車時に、音声によるナビ情報取得、音楽を聴く快適性、スマホ通話によるコミュニケーションを提供するもので、1年間に1,500台を売り上げるヒット商品となった。

この商品は、骨伝導スピーカーの原理を応用しており、ヘルメットに装着することでヘルメット自体をスピーカーに変える仕組みであるため、耳を覆うことなく、周囲の音も聞き取ることができる。さらに、センサ技術の応用により、周囲の音に連動して音量を自動調整する機能、スイッチを使用せずにヘルメットをタップすることでON/OFFを可能とする機能等も備えるなど、使用時の安全性に配慮した設計となっている。

本プロジェクトでは、当社の技術・ノウハウを水平展開することで、建設現場、道路・鉄道保全の作業現場、警備業務、宅配業務等、B 2 B 向けの製品化を進める。

現在は、B 2 B ヘルメット向けに、取り付けが容易で、騒音環境下での作業中でも手を止めることなく業務通話を可能とする技術の開発中。

初期プロトタイプを製作した段階であるが、建設会社、鉄道保全会社、ヘルメットメーカー、建設用品レンタル会社等から、高い評価を受けている。

※ 2018 年度上期、家賃補助金交付先（入居施設：東葛テクノプラザ）



< 2 >

交 付 先 A' C u l t u r e 株式会社（本社：いすみ市）

代 表 者 代表取締役 橋 本 真 樹

業 種 陸上養殖業

事業・研究開発概要

【 いすみ市大原アワビ陸上養殖事業 】

当社は、いすみ市（大原漁港近く）において、安心・安全な国産アワビの陸上養殖の実現、養殖したアワビのブランド化・千葉県名産品としての確立を目指している。

行政、地元の漁業協同組合、水産卸売業を始めとした地元企業等の協力を得て、2021 年より、テストプラント（水槽）で、蝦夷アワビ・黒アワビ、合計 8,000 個の養殖を開始。現状、アワビの成長速度や生存率等はほぼ計画どおり、順調に推移している。2022 年には本番養殖場の建設を開始し、2025 年までに年間 100 万個のアワビ生産を実現する計画。生産したアワビは、県内の水産卸売業者・旅館・高級レストラン・活魚店に販売するほか、大原港朝市での販売、いすみ市ふるさと納税返礼品としての活用が予定されている。当社は、事業の開始に際し、世界最先端のアワビ陸上養殖技術を取り入れ、これを日本固有種の特徴に合わせてカスタマイズすることで、高密度・高効率の生産技術（※）、高品質・低価格のアワビ養殖を可能にした。

※ 圧倒的な養殖コスト削減を可能にする特殊水槽の開発

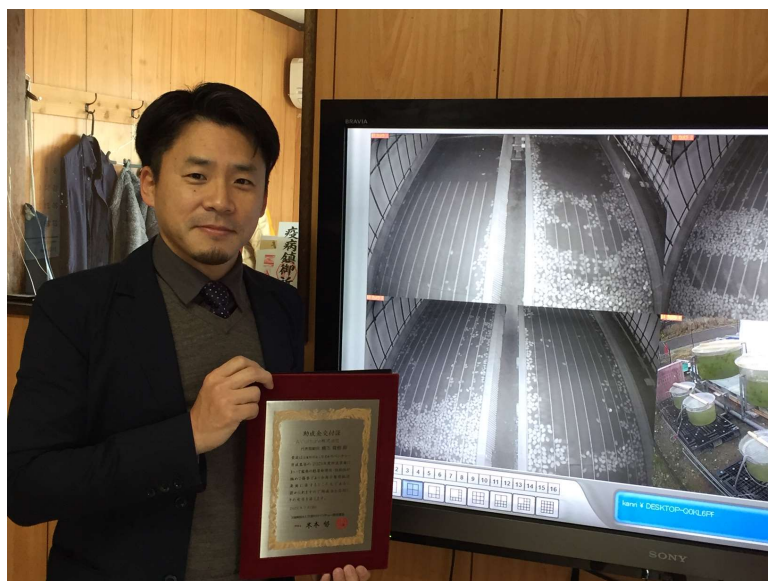
生存率の改善に向けた水槽内の水流調整・高速水流の採用

夏場の水温上昇（溶存酸素低下）に対応した酸素溶解技術の導入

成長速度を上げるための人口餌の開発

I o Tを活用した 24 時間監視システムの導入 等

また、当社では、メインのアワビ養殖と並行して、かつて大原の名産品であったマダカアワビの復活（漁協と連携、稚貝を育てての放流）、筋青海苔のアクアポニックス（県内海苔店と連携）にも挑戦することとしている。



< 3 >

交 付 先 S a k e B a s e 株式会社（本社：千葉市稲毛区）

代 表 者 代表取締役 宍戸 涼太郎

業 種 日本酒の小売販売・卸売販売事業、酒造好適米の生産事業等

事業・研究開発概要

【 S a k e B a s e 酒米栽培プロジェクト 】

当社は、酒販店として、人気銘柄の日本酒販売と飲食事業（角打ち）を行ってきた。販売する日本酒の選定に際しては、国内 400 以上の蔵元を訪問、銘酒の発掘とともに、蔵元の想いを理解するよう努め、その結果、選りすぐった銘酒の店頭販売を可能としている。多くの蔵元を訪問するなか、当社は、原料米（酒米）の不足が問題視されていること、また、原料米不足は、農業従事者の高齢化（離農者の増加）と農業収益構造の低さに起因していることに気づき、解決策を模索してきた。

本プロジェクトでは、こうした問題意識に基づき、酒販店が兼業農家として酒米を栽培することに取り組み、「原料米の生産」から「製造（醸造）」、「小売・卸売」、「飲食」まで、日本酒にかかる「一気通貫の収益確保ビジネス」を推進する。

原料米は、千葉市緑区の耕作放棄地を借り受け、田んぼとして開墾し、当社が、無農薬無肥料で生産している。2021 年の耕作面積は約 8,000 m²で、約 1,000 kg の酒米を収穫した。製造については、当社栽培の酒米を原料として、油長酒造（奈良県御所市、人気銘柄酒「風の森」を醸造）に特殊製法での醸造を委託する。

酒屋としては、弊社オリジナルの日本酒として、店頭での「小売販売」、飲食店への「卸売販売」、自社サイトを活用した日本酒愛飲家への「通信販売」、そして、2022 年から本格進出予定の「飲食店事業」の 4 つのルートで販売していく。2021 年の販売は想定以上に好調で、製造した 1,200 本が 1 か月で完売となった。

本プロジェクトは、「dancyu（ダンチュウ）」を始めとした情報誌やマスコミにも頻繁に取り上げられるなど、多くの注目を集めている。



< 4 >

交 付 先 ペナシュール房総 株式会社（本社：南房総市千倉町）

代 表 者 代表取締役 青 木 大 成

業 種 ラム酒製造及び関連商品製造販売

事業・研究開発概要

【 南房総の自然が醸す房総半島のラム酒「ペナシュールBOSO」 】

本プロジェクトは、かつて南房総周辺で行われていたサトウキビ生産を復活し、東日本唯一となるラム酒の製造を行うもので、千葉県発のオリジナリティあふれる新たなジャパンブランド、房総ブランドのラム酒を世界に届けることを目標としている。

現在、当社は、後継者不足等で耕作放棄地となってしまった南房総市千倉町平磯の花畑を中心に、同時に設立した「農地所有適格法人きびラボ」との協働で、約50aのサトウキビを生産しながら、同じ千倉町南朝夷の古民家をリノベーションして、ラム酒の製造を行う蒸溜所の設立を行なっている。

ラム酒の熟成については、戦時中に燃料用として植えられたまま放置されているマテバシイの木を使用する方針で、樽製造業者や地元木工業者と連携し、樽の製造や熟成方法の開発を進めている。

国内でラム酒を主体に製造しているメーカーは西日本に3社ほどしかなく、東京を中心とした首都圏という立地は市場性において優位であり、各地のバー、酒流通メーカー、レストラン、ホテル、製菓店などから既に注目を得て、取扱のオファーも多く入ってきている。また、ラム酒は、製菓や料理への使用頻度が高いため、飲用以外にも、新たな特産品を生み出すキーアイテムとして、地域の観光や産業に貢献できると考えられている。

このほか、サトウキビの収穫や搾り作業、蒸溜所見学等については、体験型コンテンツとして商品化し、事業連携している地元ホテルとともに、新たな地域体験型観光としてのリリースを計画している。

本プロジェクトは、CHIBA ビジコン 2020 で、千葉県知事大賞を受賞している。



< 5 >

交 付 先 株式会社 カワイチ・テック（本社：東京都葛飾区、工場：成田市）

代 表 者 代表取締役 川 口 秀 一

業 種 製造業、プラスチック成形材料製造販売

事業・研究開発概要

【 無機質凝集浄水剤が起こす持続可能な社会への転用 】

当社は、プラスチック等の加工技術のほか、素材を混ぜ合わせる技術を有しており、新製品開発を進めるなか、無機質凝集浄水剤（製品名：K Tパウダー）の製品化に至った。

K Tパウダーは、約10種類の鉱物を混ぜ合わせた粉剤で、濁って汚れた水に少量（濁水1ℓに対して使用量0.03g）を加えて攪拌するだけで、汚染物を凝集し、透明な水にすることができる。K Tパウダーが持つ汚染物凝集効果は、①電氣的イオン結合力、②錯塩を作り出す力、③対象物質を包み込む力の相乗効果による。

なお、K Tパウダー自体は、人体への安全性が高いものの、有害物質等の不純物をすべて取り除ける訳ではないため、飲料水とする場合は、水質検査や殺菌処理が必要となる。使用事例としては、熊本県で豪雨により泥水が流れ込んだ井戸水を飲料水に変えた事例、南米コロンビアで濁った池の水や雨水を飲料水・生活用水に変えた事例等が挙げられる。このほか、国内では、ゴルフ場の池の水の浄化、手賀沼の浄化、皇居お堀の浄化等、多数の使用要望が寄せられている。

かかるなか、当社は、K Tパウダーを社会貢献商品として役立てていく方針。

本プロジェクトでは、K Tパウダーを効率的に使用するための「移動式浄水器」、「自動式浄水器」の開発を行う。

また、浄水とは逆の発想になるが、海底から引き揚げたレアアース泥の凝集剤としての活用も期待されており、当社は、東京大学「レアアース泥開発推進コンソーシアム」に賛助会員として参加している。

K Tパウダーは、テレビ東京「未来世紀ジパング」、TBS「メイドインジャパン」、千葉テレビ等で取り上げられ、視聴者の反響を呼んでいる。



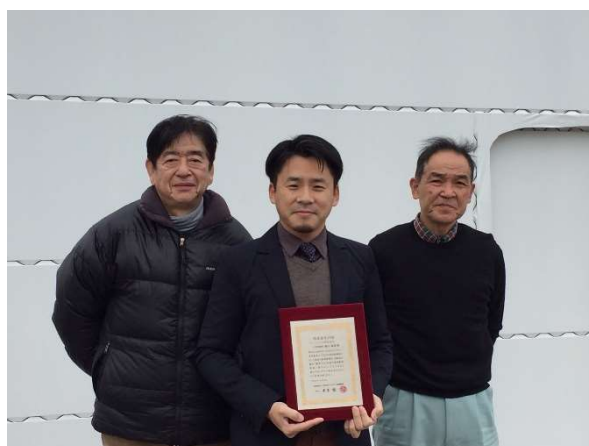
<スナップ写真>



(左から) 東葛テクノプラザ 森 所長
株式会社 あおごち 山田 代表取締役



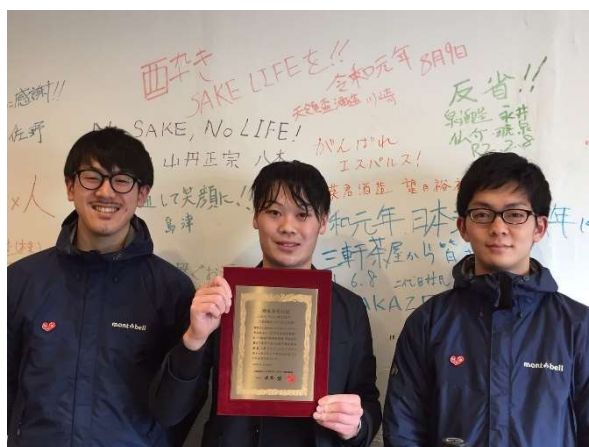
ペナシュール房総 株式会社
(左から) 青木 取締役、青木 代表取締役
三瓶 取締役



A' Culture 株式会社
(左から) 小山 取締役、橋本 代表取締役
野尻 執行役員



(左から) ペナシュール房総 株式会社
青木 代表取締役
当財団 小倉 副理事長



Sake Base 株式会社
(左から) 石井 社員、宍戸 代表取締役
土屋 専務取締役



(左から) 当財団 田中 常務理事
株式会社 カワイチ・テック
川口 代表取締役